

写真にひと手間で集客力が上がる！

# Photoshop

## レタッチテクニック

(飲食・通販編)

# 目次

第1章 集客力を高める料理写真向けレタッチ.....	2
美味しそうな写真に共通する3つのポイント.....	2
(1.) 参考学習 ～色彩・補正理論～ .....	2
(2.) 「明るさ」の調整 .....	15
(3.) 明暗の差で「照り」や「光沢」を強調.....	17
(4.) 色について .....	21
(5.) 温度について.....	24
第2章 集客やCVを高める商品写真の加工テクニック .....	30
画像をワンランク上に見せる方法 .....	30
(1.) 傾きを修正 .....	30
(2.) 不要物を取り除く .....	31
(3.) 全体の明るさと色味を調整する.....	32
(4.) 画像の切り抜き .....	35
(5.) 背景を変更して、商品を引き立てる .....	36
(6.) 商品に影をつける .....	36
(7.) Web用に保存する .....	38
番外編 アナログフィルム風に加工する方法.....	40
各種媒体で使いやすい画像に加工する .....	40

## 第 1 章 集客力を高める料理写真向けレタッチ

飲食店で使用する写真は集客において重要なポイントとなります。料理の写真が美味しそうに見えるかどうかでユーザーへの訴求力は大きく変わります。本講座では料理の魅力をアップさせる為のポイントと Photoshop による画像加工の方法を学びます。

### 美味しそうな写真に共通する 3つのポイント

「明るさ」「色」「温度」。この3つが料理写真を美味しく見せる為の重要なポイントとなります。明度や彩度をほどよく上げることで「新鮮さ」や「照り」など美味しさを表現することができます。そして、以外と忘れがちなのが「温かい料理は温かく」「冷たい料理は冷たく」見せるという配慮です。まずは色調補正に必要な基礎知識から学んでいきましょう。

#### (1.) 参考学習 ～色彩・補正理論～

##### 色の仕組み

色調補正を行う上で、色の仕組みを理解していることが重要です。仕組みを理解した上で作業に取りかかると、色調補正の方向性が見えてきます。色を作り出す3つの要素「色相」「彩度」「明度」について理解しましょう。Photoshop の色調補正では、色に関するこの3つの要素を調整することで適切な画像に調整していきます。



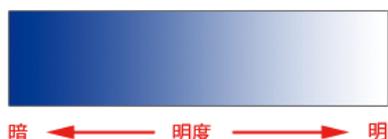
**色相** (Hue) とは、つまり「色合い」を指します。赤や青、緑といった私たちがイメージする「色」に最も近い要素です。

左の画像は色相同士の関係を表した「色相環」です。虹を丸くつないだような、色の連続した変化を表しています。色が円形状に並べられたこの色相環ですが、離れている色ほど関係性が低い、という性質も併せ持っています。

ちなみに色相環で正反対に位置する関係の色の組合せのことを「補色」と呼びます。関係性が低いので、両方を並べるとお互いが良く目立つ色の組み合わせとなります。



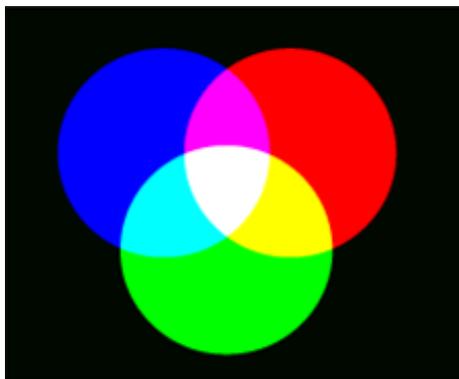
**彩度** (Saturation) とは、「色の鮮やかさ」を指します。彩度が低ければ色がくすみ、逆に高ければ色が鮮やかになります。ちなみに彩度がゼロになれば「無彩色」(白から黒へのグラデーション) になります。



**明度** (Brightness) とは、「色の明るさ」を指します。明度が下がれば黒っぽい色になりますし、上がれば白に近づきます。

## カラーモデル

カラーモデルとは、色の表現方式を指します。ここでは代表的なカラーモデルである「**RGB**」、「**CMYK**」、「**HSB**」、「**Lab**」について説明します。

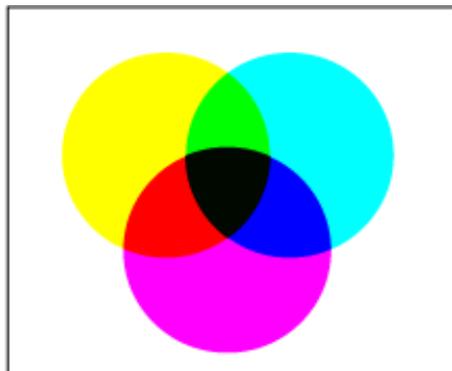


まず、**RGB** とは、「光の三原色」と呼ばれており、Red（レッド）・Green（グリーン）・Blue（ブルー）の3色の混色で色を再現する方法です。色を混ぜると明るくなって、明度が上がっていくので「加法混色」と呼ばれます。最終的には白に近づいていきます。

デジカメ、スマートフォン、パソコンのモニタ画面など、光を発する媒体はすべて RGB で表現されています。よって、WEB 用素材作成では RGB モードで出力することが一般的です。



では、Photoshop を起動して、RGB カラーのデータを新規作成しましょう。3 色のスライダを動かして、色の変化を確認してみましょう。



次に、**CMYK** とは、Cyan（シアン）・Magenta（マゼンタ）・Yellow（イエロー）・Key plate（黒）の4色の混色で色を再現する方法です。別名はプロセスカラーと呼ばれます。カラー印刷物は C・M・Y・K の4版を重ねることで、できあがります。インクの濃度は 0~100 の数値で表現し、数値が大きければ大きいほど濃い色になります。CMYK は混ぜれば混ぜるほど暗く、黒に近い色になっていくので「減法混色」と呼ばれます。

K は黒インクの版ではあるものの、Black の「K」でも日本語の黒の頭文字「K」でもなく、K はキー・プレートと言い、その頭文字をとったものです。



では、Photoshop で、CMYK カラーのデータを新規作成しましょう。4 色のスライダを動かして、色の変化を確認してみましょう。

理論上は CMY をすべて均等に混ぜると黒になりますが、インクや紙の特性上、CMY のインクを混ぜて綺麗な黒を安定して作るのは技術的に困難で、通常は濁った茶色にしかありません。

また、CMY で黒を表現しようとするると 300% のインク量になってしまい、その分、印刷の乾燥が遅くなってしまいます。そこで、それに代わって K を使用することで、インク量を 100% に節約することができ、その分、乾燥も早まる上に、常に安定した黒が出せます。

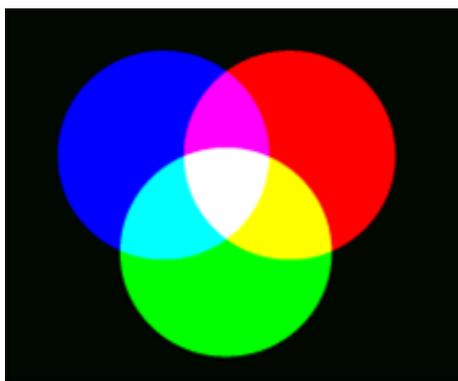
なお、Photoshop では RGB モードでしか使用できない機能もあるので、印刷用画像を作る場合、新規作成段階では RGB モードにしつつ、最終的に CMYK モードに変更するケースが一般的です。

次に、**HSB** とは、色相 (Hue)・彩度 (Saturation)・明度 (Brightness) の3つの要素からなるカラーモデルです。簡単に言うと「感覚重視」で色選びができるモデルです。

最後に、**Lab** とは、明度 (L)・緑から赤の範囲 (a)、青から黄の範囲 (b) の3つの要素からなるカラーモデルです。

## RGB と CMYK の色領域の違い

色の表現の幅は、**RGB > CMYK** です。CMYK と RGB では、表現できる色の幅、領域が異なります。RGB の光の三原色を表現した図を、CMYK モードに変換してみると分かりやすいと思います。かなり暗い、くすんだ色になるはずですが。



練習用ファイルを開きます。Photoshop で、素材フォルダから **RGB 画像.psd** を開きます。左記の画像 (RGB カラーの光の三原色) が表示されたと思います。画面上部のメニューバーから、[イメージ] ⇒ [モード] ⇒ [CMYK カラー]と進み、カラーモードを変換してみましょう。

色味がくすんだようになるのが分かるかと思います。

つまり、光の三原色をモニタで見た時の鮮やかな色は、CMYK のインクで表現するのは不可能です。パソコンのモニタ画面で作成したものをプリンターで印刷しても、モニタで見ている通りの色にはならないということになります。

## CMYK で印刷できない色

RGB で表現できる鮮やかな色、蛍光色、金色、銀色は基本的に CMYK では表現不可です。CMYK の混ぜ合わせでは表現出来ない色の場合は、それ用に特別に調合したインクを使用します。特色(スポットカラー)と呼び、CMYK のプロセスカラーでは再現できない色を表現することができます。

## カラーピッカーの操作方法

カラーピッカーでは、「**RGB**」、「**CMYK**」、「**HSB**」、「**Lab**」の各カラーモデルの数値を入力して色を指定することができます。ただ、数値入力による色の作成よりは、直感的に色を作成する方法を取られることが多いツールです。



今回は **HSB** カラーモデルによる色設定を試してみましょう。Photoshop でカラーピッカーを表示します。

まずは「H」のラジオボタンをクリックします。これで HSB カラーモデルのうち「H (色相)」を基準として色を作成できるようになります。